学校教育実践コース（英語教育専修）
イギリス文学講読

英語を使用することを目指した「イギリス文学講読」の取り組み

英語教育講座　竹永雄二

1. 授業の目的と内容

1) 授業の目標

授業の主な目的は、A. Christie, 4. 50 from Paddington の英語を正確に読み取る訓練を通して、推理力を働かせながら英語を読む楽しさを実感し、長い作品を読み進める持久力を身につけること、また作品を読み取るプロセスに能動的に参加することにより、知識としての英語にとどまらず、英語を運用するという態度を高めることである。

到達目標は次の 3 つである。

(1)推理力を働かせながら作品を読むことを通して、英語を読む楽しさが実感できる。 (2) 長い作品を読むことを通して、英語を読む持久力を身につけることができる。 (3)知識としての受動的な英語理解にとどまらず、能動的に英語を使用するという態度を高めることができる。

2) 授業の内容

(1) 教材について

C. Doyle と並ぶ英国の代表的な推理小説家 A. Christie の作品を選んだ。推理小説の面白さを通して、reading 力を向上させることがまず期待される。英語は平易ではあるが、色んな仕掛けがあり、知的な理解力が試される。また主人公のマープルさんが、田舎の小さな村に住む老人であるということも作品のユニークな点である。老人が肉体的制約をいろいろな工夫により、克服しながら難事件の解決に挑戦して行くというストーリーは、限られた条件下で可能な限りの努力をするという積極的なメッセージを伝える。特に入門期の英語学習者には、言語的にも、内容的にも、教材として興味深い。

2. 授業の工夫

1) 授業の進め方

受講者は英語専修 8 人、その他の専修 7 人の、合わせて 15 人。授業の展開は前半、中盤、後半の 3 つのパートからなる。前半では同作品を基にしたBBC のテレビ作品の DVD を 10 分ほど視聴し、その後、ワークシートを配布して、英語の聞き取りを確認し、向上させるための英作文を行った。中盤では、輪番制で、学生がリポーターとなり、1 ページごとに、粗筋の説明、難解であったり、内容的に重要だと思われる点についての説明を行い、その後その他の学生からの質問を出してもらい、それに対してレポータが応えていくという、できるだけ自分たちの力で内容理解を深め、能動的に授業を進行していくようにした。後半の 15 分程度は、ヒアリング、文法などのワークを与え、英語を正確に自然に使うことを目的に練習を行った。

2) 指導上の工夫

予習を前提として、学生同士がコミュニケーションを取り合いながら、自分たちで授業作りをして行くという環境作りに努力した。教員がきちんと整理された意味を伝えて行くのではなくて、学生自身が意味を造り上げて行く能動的プロセスを重視した。ねらいは reading という一件受動的な知的活動を active なものとし、その過程の中で知識としての英語学習ではなく、活用するための英語学習という方向を出すことである。

3. 学生の評価と今後の改善に向けて

授業の 14 回目に、授業評価アンケートを行った。アンケート内容と結果は以下の通りである。

1) アンケート内容と結果

(1) 授業の難易度

やや難しかった（11)、ちょうどよい（4)

(2) 授業の進度

やや早かった（6)、ちょうどよい（9)

(3) 教員の話し方（わかりやすかった）

まあそう思う（11)、どちらとも言えない（３)、あまりそう思わない（1)

(4) 教材の使い方（効果的であった）

強くそう思う（2)、まあそう思う（9)、どちらとも言えない（1)、あまりそう思わない（2)、全くそう思わない（１）

(5) 双方向性（工夫されていた）

強くそう思う（5)、まあそう思う（9)、どちらとも言えない（1)

(6) シラバスへの準拠

強くそう思う（1)、まあそう思う（13)、どちらとも言えない（1)

(7) 改善への意欲

強くそう思う（5)、まあそう思う（6)、どちらとも言えない（３)、　全くそう思わない（1)

(8) 授業の満足度

強くそう思う（２)、まあそう思う（8)、どちらとも言えない（4)、　全くそう思わない（1)

------------自由記述--------------

授業の良い点

①	家での学習時間が増えた一番よく勉強した講義だったし、内容も面白かった
②	生徒に多くの発表機会を与えており、教員は生徒の授業参加への意欲を高めようと努めていた
③	なかなか質問や発表がしにくいが、それでも学生ができるように工夫できていたと思う
④	パワーポイントが分かりやすかったです、リスニングの勉強にもなりました
⑤	先生が授業をよくしようとしているのが伝わってきた
⑥	普段は使わないイギリス特有の表現を知れたこと、人前で自分のまとめたものを発表する機会が得られたこと
⑦	プレゼンで、重要な文や単語を表示することによって、説明してとても分かりやすく、工夫されていた、DVD の利用

1)　授業の改善点

①	映画を見て､音声を聞き取って英作する問題は少し難しすぎると感じた
②	少し難しかった
③	リスニングが難しすぎたと思う
④	テキストが渡されるのが遅かった
⑤	映画をもう少し楽しみたい
⑥	どこが大切なところかなどが分かりにくかった
⑦	内容的には全く面白くない、これを 1 年次にやるのはどうかと思う

2) 反省と今後の課題

授業外学習、授業への能動的参加などに効果が確認されたが、全体的に、積極的評価と否定的評価とかなり分かれた。やはり入学したばかりの学生にとってはこのような授業の進め方はかなり抵抗を感じるものであったと思われる。実際にかなり空回りしていると感じることはたびたびあった。だが現実の英語教育は大きく変化をしていて、文学とはいえ、ただ言葉の鑑賞に終ったり、文化的背景の知識を獲得するだけでは、今英語教育が目指そうとしている流れに逆行してしまう。英語が使える日本人の育成につながる取り組みが必要であろう。今後に向けて、次の 2 点を改善して行きたい。

(1) 適切な説明力

学生の発言しようという意欲をつぶしてしまうような過剰な説明はさけなければならないが、説明不足になってもいけない。適切なタイミングをつかみ、効果的に説明をする工夫をする必要がある。

(2) 全体の授業の体系性、他の授業との関わり

一回毎の授業の目的を明らかにすること、最終的な達成目標に確実に近づいていくように、学生が達成感を持てるように、全体のきちんとした体系化を図る必要がある。